

書写の要素 文字の外形

山梨大学教授 宮澤 正明

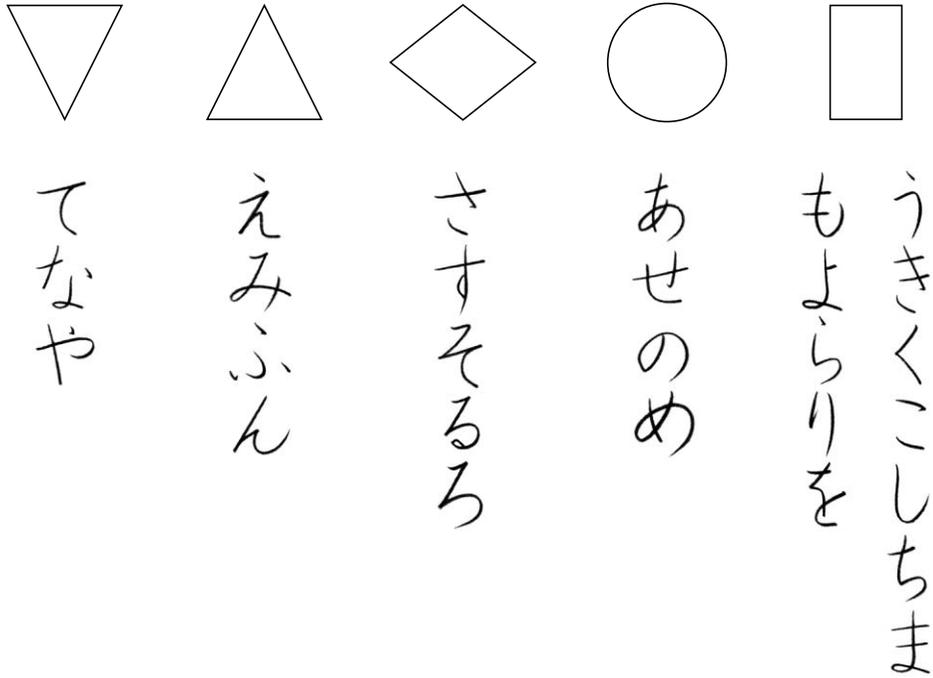
今回は、文字の外形について取り上げます。

■文字の外形

文字は、書体としての体系や様式の中で、読みやすさ、書きやすさといった観点から、文字それぞれに固有の形が決定づけられてきました。「山」は中心の縦画を長く左右の縦画を短くした形に、「月」は背を高くスマートな形にと、それぞれの固有の形が定着して今日に至っています。

この固有の形は、誰もが「山」「月」と認識する上で大切な要素です。このように、文字それぞれの固有の形にそってアウトラインを引いたものが、文字の外形といえます。なお、高等学校芸術科書道では「概形」と表記しますが意味は変わりません。

このアウトラインを厳密に引きすぎると、多くの場合、その形は複雑な多角形になります。これでは分類が困難になるので、外形指導では「□△◇」などの単純な図形によってとらえ

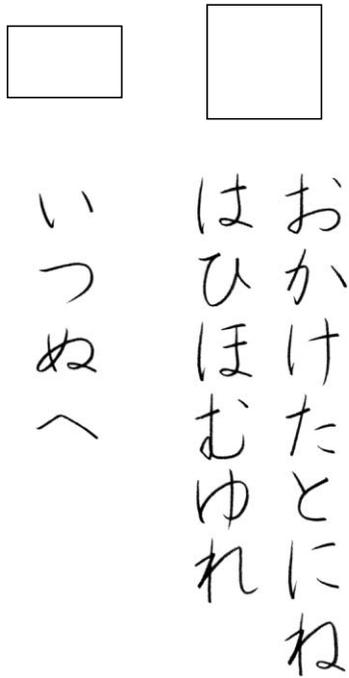


ることが一般的です。

文字の外形は、字形の全体像をイメージ化する上で有効な要素なので、小学校低学年から学習する機会が多いようです。小学校低学年は、算数で図形概念や感覚を養う時期にあたります。文字の外形学習と図形学習とを横断的に関連を図りながら指導すると、理解が早まるでしょう。

ただし、文字の外形には曖昧さがあります。「日・国・門」などのように、画そのものが直接外形になるような字例は問題ないのですが、「女・力・必」などのように、点画の出入りが多く、アウトラインが複雑な多角形になりやすい字例では、外形学習はその効果を期待しにくいといえるでしょう。字例を選択する場合は、単純な図形に入るものに限定する必要があります。

外形指導でもっとも効果的なのは平仮名です。大まかな分類をしてみましょう。ただし、これも目安なので、この外形にすべてを合わせる必要はありません。



わたしたちが文字の形をどのように認識し、それをどのように記憶にとどめているのかについては、まだ十分にわかっていない部分もあります。しかし、文字学習や書写学習も手で書いて覚える方法によっていることから、文字の記憶は完成された字形一つだけがインプットされているのではなく、筆順に従って一点一画を書きながら文字を形成していく過程までが含まれると言われています。したがって、文字を実際に書く際の点画の終筆の書き方や字形、筆順などの記憶が、大いに影響を与えることになるのです。

文字を手で書くことで文字の記憶を確かなものにする方法は、今後も普遍的学習方法として生き残ることは疑う余地はないでしょう。

その一方で、目で見て覚える学習過程も存在します。教科書体をはじめ、書写教科書のいわゆるお手本とか書き文字教材がその主たるものですが、子どもたちを取り囲む文字環境は適切な書き文字ばかりとは限りません。子どもたちは小学校入学前にさまざまな文字スタイルを見て目習いをしてきています。ですから、書くための記憶としては不完全ながら、文字の外形、点画・字形の特徴などは、既に記憶していると思われる。しかし、この漠然とした記憶としての「文字表象」が書き文字にどの程度影響があるのか、このあたりの研究はまだ進んでいないと言えます。書く学習だけでなく、文字表象を確固たるものにするためにも、目で見て覚える文字の観察学習もおおいに取り上げたいものです。